

頭が硬い？やわらかい？

われわれ人間の思考は、ある意味で柔軟さに欠けることは、事実である。

これは、知覚や記憶といった人間の基本的な情報処理能力に一定の限界があるためである。例えば短期記憶の容量からみて、多くの量の情報を同時に扱うことは先ず無理である。同時に、たくさんの事柄を念頭に置いて物事を考えることは実際には不可能だからである。また多くの情報に関連した思い違いや錯覚といったようなエラーが必ずあることも考慮しておかなければならないからである。

また人間の行動はこれまでの経験、つまり慣れや日常に深く支配されている。したがって思考についても同様に、これまでの経験の枠内を一気に飛び出すような、新しい考えを持つに至ることは大変難しいのである。

ここで、ひとつ難解な問いを提供する。

この問いの答は普通に考えると解決の出来ない問題の例である。しかし、ちょっと既成の枠からはみ出した発想をすれば、解答できるとされている。正解は次ページに掲載するが、心理学者によれば、この問題の解決には「水平思考」が必要だとしている。

「水平思考」とは、型にはまらない、決まりきったパターンにとらわれない思考のことであるとされている。すなわち、そのような思考ができるか、できないか、一つの問いに一つの解答しか思い浮かばないか、日頃の思考が支配的か、など「柔軟さ」に反する思考領域しか持てない、あるいは持たない人のことを「頭が硬い！」ということなのであろう。

ある因業な金貸しが商人に対して「もし、おまえのかわいい娘を私によこすなら、借金を帳消しにして、監獄へも行かずに済ませてやろう」と申し出た。

商人と娘は、おびえ絶望的になりながらも、神の決定に委ねることに同意した。

金貸しは、自分が袋に黒い石と白い石を入れるから、娘が一つひくようにと言った。

白い石を引けば、借金は帳消しになり、娘も自由になれる。

黒い石を引けば、借金は帳消しになるが、娘は金貸しのものになる。

もし娘が引くことを拒めば、父親は監獄行きになるだろう。

三人は小石の敷き詰められた道に立っており、金貸しは二つの石を拾い上げ、さっと袋の中に入れた。

娘は金貸しが二つとも黒い石を入れるのを見てしまった。

もし、あなたがこの娘の立場だったら、どうすればよいだろうか？

これは「運命の選択」と題された、思考能力を試す問題だが、多く人は、まず「この因業な商人は何て奴だ！」と憤りを感じるはずだし、そう感じる正義感、義侠心を持ち合わせる事が大事だともされている。すなわち、他人の弱みにつけ込むという「ずるさ」や「いやらしさ」というものは決して求められる「思考の柔軟さ」ではなく、「頭の硬さ」の評価以前に「病んだ思考」を責める試金石でもあるのである。

「運命の選択」の答え

娘は、袋の中から小石を一つ取り出した。

その途端、娘は手をすべらせて引いた小石を落としてしまった。

小石はたちまち他の石に紛れて、どの石を引いたのか判らなくなってしまった。

娘は「あら、いけない。でもいいわ、袋の中に残った石の色を見れば、どちらを引いたのか判りますもの」と言った。

(拍手！)

以上